

今月のイチオシ化石紹介

今月の表紙は2019年1月の学会において発表された古第三系石城層中のチャート礫から産出したコノドント化石で、三畳紀中期の Anisian 及び Ladinian と、三畳紀後期 Norian のものが図示されている。

コノドントの分類学的位置付けに関しては、Pander (1856)がバルト海沿岸より初めてコノドントを報告して以来議論が続いており未だ定説はない。しかし時代ごとに特徴的な形態を示すことから、カンブリア紀後期から三畳紀末に絶滅するまで世界的に重要な示準化石となっている。3つの形態が知られており、1本の歯からなる角状コノドント(Coniform)、1本の主歯と複数の小歯から成る複歯状コノドント (ramiform)、そして台状プラットフォームを隆起物が被覆した板状コノドント (pectiniform)と名付けられている(図1)。

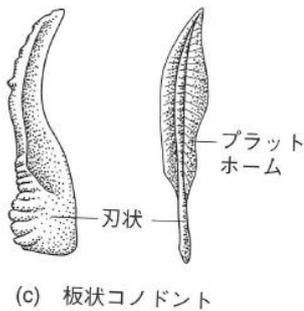
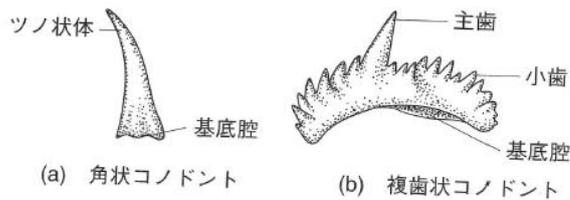


図 1. コノドントの各種形態
(ミルソム・リグビー, 2005)

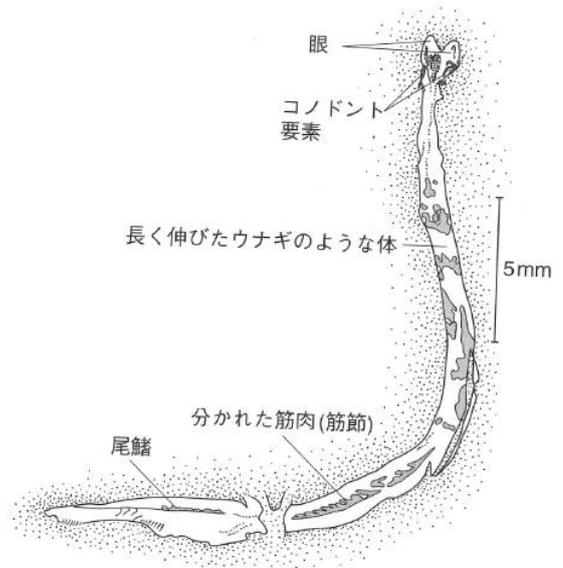


図 2. コノドント動物の印象化石
(ミルソム・リグビー, 2005)

上述のように、コノドントの分類学的位置付けが決まっていないが、コノドントを体内に持つコノドント動物の化石については既に発見・報告がされている (図 2)。コノドント動物の内部には一つのコノドントが存在するのではなく、形態の異なる数種類のエレメントで構成されている。このエレメント群が生息時の配列を保ったまま地層面に保存されているものを自然集合体と呼び、日本からも産出している。

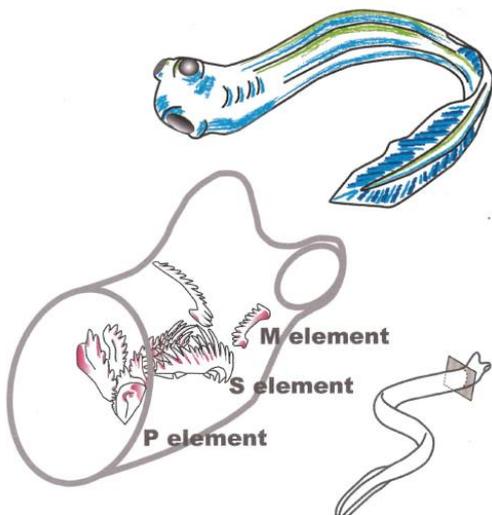


図 3. コノドント自然集合体の復元イラスト
(高橋ほか, 2012)



図 4. 鈴鹿山地産出の最上部ペルム系コノドント自然集合体 (Koike et al., 2004)

なお、2019年6月時点で公表されている日本最古の化石は岐阜県から見つかったオルドビス紀コノドントである。

(参考文献)

上松佐知子・鎌田祥仁, 2018. 付加体深海堆積相における中・古生代微化石研究の最近の進展: 放散虫およびコノドント研究の現状と将来の展望. 地質学雑誌, 124 (12): 951-965.

クレア＝ミルソン・スー＝リグビー (Milson, C. and S. Rigby), 2005. ひとめでわかる化石のみかた (translated from Fossils at a glance), 朝倉書店, p.154.

指田勝男, 2010. コノドント. 日本古生物学会編, 古生物学事典第2版, 朝倉書店, 189-191.

高橋聡・鈴木紀毅・西金祐一郎, 2012. 4. 1. 6 コノドント. 谷村好洋・辻彰洋編著, 微化石, 東海大学出版会, 125-133.

6月の行事報告

- ・体験発掘
開催回数：13回
- ・特別体験発掘
開催回数：2回

7月の行事予定

- ・体験発掘（毎週土曜・日曜の10時～11時30分及び13時30分～15時、但し雨天中止）
- ・夏休み企画展「いわきの微化石～幻の地層を求めて」
7月18日（木）～9月1日（日）
- ・親子自然探訪教室「プランクトンを採集しに海に出かけよう！」
7月15日（月）受付は7月14日17時まで

お知らせ（重要！）

Notice!!

Notice!!

例年暖かくなりますと、軽装で発掘体験に来られる方が多くなります。HP や館内表示でもご案内しておりますが、体験発掘に参加される際は**運動靴または長靴**の着用をお願い致します。サンダル（クロックス含む）や踵の高い靴での体験発掘場への入場は安全確保のため、お断りしております。皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

お知らせ（重要！）

Caution!!

5月21日の大雨により、現在通用口窓ガラスが破損しています。体験発掘の際には正面玄関からの移動をアナウンスしておりますが、危険ですので通用口のご使用はお控えいただきますようお願いいたします（図5）。



図5. 破損した通用口



いわき市アンモナイトセンター

〒979-0338 福島県いわき市大久町大久字鶴房 147-2

TEL : 0246-82-4561 FAX : 0246-82-4468

URL : <http://www.ammonite-center.jp>

E-mail : info@ammonite-center.jp